

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

いたましい武甲山

長岡ハイキングクラブ
土田 幸雄

頂上が登山禁止にはる直前に登って以来、10年ぶりに秩父・奥武蔵のかつての名峰武甲山を訪ねた。

3、4日前からの予報どおり好天気、西武秩父線横瀬駅から武甲山の荒々しい岩肌(というより痛々しい傷跡)がくっきり見える。

石灰岩積載のダンプ街道と化した表参道を歩くこと1時間強、この間多くのセメント会社立ち並び、丁度その構内を通行させてもらっている感じで、義理にも信仰の山の表参道とは言えない。

最奥の採石場入口を過ぎてようやく舗装もなくなり、薄暗い杉林を抜けると道は二分し、右手に生川を渡って鳥居が見える。ここで妻坂峠へと続く車道と分かれ登山道に入る。

この鳥居が1丁目、頂上の御嶽神社52丁目まで丁目石が続く。1丁目の「発心」に始まり最後が「悟りの境地」

を表現する古い信仰の名残りだそうで、必ずしも距離を示したものでないようだが、10合目が頂上と馴らされた者には、やや戸惑いのある標石である。

マス釣り場を過ぎて杉林の中をジグザグに登っていく。きれいに枝打ちされたみごとな杉林。世話する人の人柄が偲ばれる美林である。大正13年7月13日の山行記録には、「左右はすべて杉の造林地、それも若々しくて御嶽(奥多摩)に登る道のように神々しくない」とあるから樹齢は80年程か。

12丁目石を過ぎた道端に、地図に寺跡を残すだけとなった金玉寺への道標であろうか「南無阿弥陀仏 持山入口 安政二卯正月 西賢」と彫られた自然石が無造作に置いてある。

15丁目を過ぎると、うっそうとして暗く手入れもあまりゆき届いていない感じの森林

となる。18丁目不動の滝で、どをうるおし、高さ2メートル程の御影石製「武甲山御嶽神社参道 昭九・四吉日」を見送ると、やがて32丁目から35丁目にかけて、丁目ごとに樹齢1千年近くと思われる老杉が、王者のごとく太い枝を真横に伸ばしている。

杉が松に変わった38丁目あたり、以前は森林の中をそのまま登り、48丁目老杉根元に湧く清泉で一息入れたが、今は採掘のため廃道となつて、それも叶わずここから道は大きく迂回、急登して52丁目石のある神社に到着。1丁目から約1時間半。

ここから東にのびた尾根を200メートル程ゆくと三角点1336メートルと地図上には標記されているが実際はない。

昭和54年5月の連休を最後に、石灰岩採掘のため頂上は立ち入り禁止となつて削りとりられ、今は標高で30〜40メートル程低くなったのではなからうか。というのも神社の裏手は直線距離にして30メートル程の所まで深さ100メートルもあるうか、殆んど垂直に採掘され、目をそむけたく

なるような無残な姿、緩やかにのびた尾根はおるか頂上も幻と化してしまつたからである。

新年会案内

日時 1990年1月21日
(日) 午前11時より
会場 イタリア軒
新潟市西堀通り7
0258-

22415111
会費 10000円
申込 上、下越、新潟、各連絡事務所、又は協会事務局へ。
長岡市学校町1の12の23
室賀輝男方
0258-3210428

全山石灰岩で構成され、しかも民有とあっては仕方ないことかもしれないが、武甲山という名の由来は、秩父側から見た形が兜に似ているためとか、あるいは日本武尊が「勇者が怒り立てるが如し」と表したとか言われているように、威風堂々とした頂上であつてこそ、初めて名峰であ

ろう。「かつての名峰武甲山」ではあるがヤシオツツジが咲き乱れ、秩父盆地から両神山にかけての素晴らしい展望を持つ西コースも、石灰岩採掘のため通行禁止となっている。セメント文化と言われる今日、時代錯誤も甚だしい、何を考えているのかと言われるかもしれないが、武甲山が全山登山禁止などということにならないよう、そしてこれ以上醜い姿にならないことを希望のみである。

好天に恵まれながら、何となく気持ちの晴れない山行だった。(二元・10・15)

七賢を偲ぶ会追悼文 ④

山岸栄三郎さんを偲んで

高橋 庄一

出会い

私が初めて山さんと山へ行ったのは昭和34年の春、杖差岳の東俣ルートへ冬山の荷下げに行ってきたときだったと思う。今は亡き高橋千代吉さん、

曾山志計雄さんも一緒であった。そのときコンパクトな雨具を持って来られ、その雨具を広げる様子を見ながら千代吉さんが、手品のような雨具だとアツケに取られた顔で眺めておられたのを鮮明に記憶しております。

人柄

山さんは無口で多くを語らず、人に命令せず身をもって行動を示す方でした。又酒をこよなく愛し特に焼酎が大好

きで、焼酎特有の酔い心地をお好きでした。酔えば泰然とした様子で、東下りの一節かノンキナ父さんが出るのが常でした。アイタタコンチクシヨウナニシヤガル……ノンキナトウサンテッポウカツイテ……等。今一度山さんの声を聞きたいと思いますが所詮叶わぬことです。後30年待って頂けば私も一緒に酒を飲めると思いますから、今から飲み代を貯めて待っていて下さい。

山さんの写真

山さんの写真歴は長い。古いカメラの話が通じるのは山仲間で山さんだけであった。ウエルタペルレ、スーパーイコンター、パーレット、沈胴式ライカ、又レンズではテッサイ、ゾルナー、エルマー等古い昔の写真機の話が出来る相手がなくなつたのは寂しい事である。

の前の写真は足にゲートルを巻き仲々良い男で、若い頃に泣かせた女の数は片手以上であったと話しておられたが、真偽の程は闇の中、あの世の山さんに確かめてみたい。

最後の山

山さんと山らしい山を登ったのは10年前、映彩山岳会の夏山合宿で、杖差岳の大熊尾根を登ったのが最後であったと思う。

は出来ない。悲しい事だがどうしようもない。

松明登山

山さんは弥彦山松明登山奉賛会の会長であった。最後の松明登山のとき、電車の乗換えに手間取り東三条まで行ってしまい、麓の山岸家へ着かれたのが夜の9時頃で井口さんと大分心配した。

山岸家で花火の音を聞きながら、山さんと森谷さんの会話を録音したのが山さんの最後の音である。先日聞き返してみたが、お2人で今頃どんな話をしておられることや、地球の裏側のテレビは見なくともよいが、あの世の山さんへ電話してみたい。

おわりに

怒ることのなかった山さん、酒をこよなく愛した山さん、手抜き仕事をせず、儲ける事をしなかつた山さん、その山さんを見習って残された30年の人生を生きたいと願っています。もしルートをはずれたらあの世から電話で、「庄ダメダゾ」と電話で連絡して下さい。

正当回向の一節を引用し山さんの霊に捧げたいと思います。

浄極り光通達し、寂照にして虚空を含む、却来して世間を覗すれば、猶お夢中の事の如し、仰ぎこいねがわくは、三宝府して照鑑を垂れ給い、上來謹んで、香華灯燭を備え、集むるところの功德は釈、証の為に回向す。伏して願くは生死の流れに処して麗珠独り蒼海に輝き涅槃の岸に踞して桂輪孤り碧天に朗に世間を導いて同く覚路に登らん事を

合掌

齊藤平七さんを

偲んで

齊藤 かつら

20数年前に東京のいろいろな会でお目にかかって親しくなつた藤島さんに、奈良の山岳会とジョイントの山行があるからと、誘われて始めて越後支部の方々と山行を共にさせて頂きました。笹川流れにテントを張り、海岸のキャンプで一升ピンを並べて、豪快な焚火の酒煙にはたまげてしまいました。その時に齊藤平七さんと親しくなり、それから東京での行事、支部での行

事、山行などで何回もお目にかかりました。齊藤さんが60才になられた時、還暦山行をするから来ないかと言われ、東京の友人を連れてお従させて頂いたのが、妙高山のツアードでした。長崎さんの宿に泊り、大谷の小屋に一泊、小屋は雪が吹き込んで顔に積り、齊藤さんが借りて来られたラジュースは故障で点火出来ず弱っていたら同宿した越稜山岳会の今は亡き加藤勝義さん、山田智子夫妻達のカマドを借りてたべものがありつけ、そのときの豚汁の味は忘れられません。風と吹雪で途中までしか登れず引き返しましたが、その時の美事な棒ずりは今でも目に浮かびます。これ以上開けない位開いたボーゲンのクラシクな棒ずりで、深雪を転びもせず滑ってくれたまげました。そのあと飯豊を滑ろうと云われ、ゾンメルを持って参加したら、スキーを持って行ったのは私と加藤さんだけで、スプーンカットの石転び沢を、カラカラ音をたててみっともない滑りを皆に見られ、だまされてくやしがつたものです。

昨年巻機山行でお目にか

ったときはお元気そうでしたが、それから1ヶ月後に、逝かれてしまつて信じられない気持ちでお宅へかけつけました。生きていた様な死顔に、齊藤さんとお呼びすれば、あの太い手を動かして、返事をされるのではないかと思われるような気がしました。自然保護委員会が越後支部連絡係になり、何回も自然保護の問題を越後支部に送っていました。昨年の8月から送らなくてよくなり寂しく思っています。

齊藤平七さんを

偲んで

鈴木 敏雄

数日前に会った時には、偶然にも佐渡山岳会会長の村川経一郎氏が亡くなり、お悔みを包まねばと話したのが7月25日、弥彦松明登山の朝のこと、そして元気に弥彦へ向う後姿を見送った私にはその2日後に亡き人になろうとは、信じられない思いで今こうして亡き齊藤さんを偲んでは居るが、想いはつきない。

たしか昭和47年から毎年3・4年続けて信州入りを繰り返した時のこと、藤島先生、齊藤さん、井口さん、私と荒井辰弥さんの車で、川中島から上高地へ入ったのが昭和49年6月2日、丁度その日はウエストン祭であり、又日本山岳会の山岳研究所(山荘)の開所と重なった日であった。河童橋から数分、明神への裏道を入ると左側に立派な山荘が見える。新しい表札と一般の人は利用できませんと明記して携げられてある。

玄関を入ると素晴らしい一階の白いソファのある室にはすでに山岳会の横先生、山崎安治氏、織内副会長、渡辺公平氏など大先輩が祝杯を重ねて居る。越後支部の玄さん、齊藤さん、井口さん等が見えたからさあ大変、ウエストン祭までまだ一時間余もあるとのこと、坂倉登喜子さん一行のコーラスの音が2階から聞こえるが、我々の到着を待ったかのように1階へ降りて来て30名近くの大人数となり、挨拶もそこそこコップ習が廻される。

ほとんどが東京の会員であり、やおら齊藤さんが、これだけ立派な山荘が出来たからには、東京の人達は何かお祝の記念品を持ってきたらどうね、と尋ねるが誰れからも返事はない。

すかさず齊藤さんが、コーラス部隊長(坂倉さんこと)も居るし、コーラスにはピアノ伴奏が付き物だし、ピアノが1台有ったらこの部屋ももっとすばらしい部屋になるのに、誰れも寄附する人が無ければ越後支部で1台寄贈したいがどうだろう、と切り出す。玄さんはコップを片手にニヤニヤしながらうなずいている。周囲の面々は、まさかと思うが、そこが齊藤さんの頓智の良さか、坂倉さんが齊藤さんホントと聞き直すと、この部屋ならランドピアノが部屋は多少狭くなるけど、音は良いし似合うから越後支部で記念に1台寄贈するよ、ただ新品ではないけどと念を押す。今日せめて目録だけでもと墨と筆の用意はないのが幸いし何れ現物を送ることに約束。そろそろウエストン祭の開始時間も迫り、碑前に向う。1時間近くでウエストン祭も終り、直会が西系屋の座敷。どうしたとか越後支部が一

番上座、奥原信濃支部長が開宴の挨拶、織内副会長から山研の経緯と今日開所した報告御礼の辞に次いで、先程越後支部からグラントピアノ1台寄贈の話まで披露された。

そこは手馴れたもの、斉藤さんは、大きなグラントピアノではトラックで運ぶに分解して運ぶとここで組立て調律となると大変ですから、小さなグラントピアノにします。

と一同から拍手、玄さんは終始ニヤニヤしている。

宴もそこそこに引き揚げ、山岳会の面々に別れを告げ白骨温泉から乗鞍スカイラインに向う。

つい昨日の事のように想い出されるが、あの頓智と云うか軽い冗談のうまさ、そして穏かに語りかける笑顔の斉藤さん。

その年の暮、年次晩餐会で山崎安治さんから、6月末に山岳会へ包が届き、中から小さなピアノが出て来たので山研の棚に飾ってあるとの話を聞かされ、又、越後支部がピアノを寄贈する話が他支部に伝わって、北海道支部から坂口直行氏の画、東海支部から名古屋の柱時計などが贈られ

たが、それも斉藤さんのピアノの話が基で、ともあれ斉藤さんの冗談から花が咲いたように伝わり、山研も大分助かったよ、と山崎さんも大満足の様子で話されたのも忘れられない。その山崎さんも故人。私共には、もっともっとこの様な実のある冗談でも、穏やかに語りかける笑顔の斉藤さんから色々な事を教えて頂きたかった矢先にと申うと、今は亡き斉藤さんを偲び、ただただ御冥福をお祈りするばかり。

第10回自然保護研修会

紅葉の日尊倉山で開く

自然保護副委員長 桑原悌治

合掌

去る10月21、22日、福島県境の上川村で、23名の参加者により開かれた。当日は久しぶりの秋晴れで、四囲の山々は錦絵のような鮮やかな紅葉で、目もさめるがかりであった。

第1日目は上川村民会館で、①日尊倉山における自然保護の現状について

東浦自然同好会の佐藤さんから、スライドを見ながらお話しを聞く。ブナ林の生い立ちから、その生長、植生状況と伐採利用の経過と問題点を調査資料に基づいて詳細な説明をうけた。

ブナ原生林の平均樹径約70センチメートルと見事な樹林を形成しているが、反面乱伐で再生がなく、単なる藪山と土砂崩れ等により、地形が変容した箇所が増えている。今後はの原植生保護が絶対必要であると強調され、監視と保護活動を進めている。同好会員は県内200人以上でそれぞれ地域活動に取組んでいる。

②各地域の開発現状について

各ブロックの指導員より多くの報告がなされた。特徴として何れもリゾート開発に伴う自然破壊事項が多かった。

また、自治体行政の身売りともいえる、外部資本の導入開発。自動車道の開通で安易に入山でき、動植物の盗掘が増加しているなどの報告がされた。

た。

今後より情報収集と交換を進め、監視と保護活動強化の重要性を感じた。

③山岳地域におけるし尿の処理について

日山協総会に京都岳連より提議されたもので、各県の意見集約が求められており、その内容検討が資料によりなされた。その最終集約は次期指導員会了承を経て、日山協に報告することとなった。

(登山月報239号掲載)

④その他報告

「原生林の夕」千人の入場あり成功。今後継続的活動組織として、「新潟県自然保護協会」の設立に向けて年内結着の予定。

菅名岳の原生林保護活動報告。矢筈山岳会より「白山、宝蔵山登山道整備と避難小屋建設」の陳情署名について、

各山岳会に協力要請などがあつた。夜の懇親会はなごやかに夜のふけるを忘れ盛会であった。

第2日目は日尊倉山126

2m、貉ヶ森山1314m山塊で現地研修が行われた。室谷川溪谷を県境の峠まで約2時間、標高に沿って来る人工林から雑木林、ブナ、シラビ

福島県境峠



ソを樹層とする原生林を観察する。伐採は道路側を残して、カモフラージュした、乱伐の様子などずさんな利用と国有林管理が露呈していた。

峠から日尊倉山へは導標はなく、県境尾根沿いに茸を気にしながら、わずかに残る踏跡を確かめながらの藪漕ぎである。本県側は立派なブナ、シ

ラビソ、ダケカンバの樹林で、下層は根曲り竹の群生とクロモジ、リョウブなどで、原植生の垂直分布がよく観察された。反面福島側はもの見事に伐採されている。

山頂から四圍の景観は特に福島側の眺望がよく、すばらしい紅葉にもえ絶賛の声が上がる。藪漕ぎの疲れはビールの乾盃が流してくれた。

好天ついでに貉ヶ森山まで足を延ばした、峠を挟んで日尊倉山周辺の植生が手にとるように対比観望できた。

まとめ
資本の論理が優先し、くらしや人の心をむしばむ自然破壊が、地球的規模で進む今日、私達岳人が果す自然保護の役割と機能は極めて大きい。

回を重ねてきたこの研修会が、地域を焦点にすえ、具体的な問題把握と理解を深め、自然保護活動を通じ、多くの人々に理解と協力をより一層すすめる重要性を強く感じた。最後に、この研修会場のご提供と準備運営にご協力をいただいた、上川村役場と東蒲ハイイクの大江勝広氏に深甚の謝意を表し、報告にかえる。

出席者(受付順) 坂井厚、

落合武志、松尾弘、下條莊一、小林由夫、本間一人、大江勝山田智子、築木力、増子輝男、丸山高司、小林重弘、間初男、藤芳子、早川、桑原悌治、皆川満、藤田英忠、渡辺知徳、石田国夫、堀井浩

木六山親睦登山を終えて

矢筈山岳会 松尾弘

さる9月30日(土)から10月1日(日)にかけて、県山協親睦登山を当村松町の木六山(825・1m)を会場に、総勢25名の参加を頂き行われました。

久方振りに当地の川内山塊が会場となり、また宿を提供するとあって、時前の登山道整備と宿泊会場の「青少年自然の家」の借用準備と、会員一同張り切って当日に備えました。

日頃お世話になっている各山岳会の皆さんに、せめて酒の肴を用意して心おきなく懇親の意を深めて頂くとうと、30日夜のメニューは「モツの煮込」と決定いたしました。豚の軟骨と白モツを30人分用意し、会長宅で2日間コトコトと煮込み、当夜野菜と豆腐を加え更に煮込んだので(手前味噌も含み)、何杯もお代りの定グシへの登りでは、大汗



が話しかけてきたような気がして(必ずまた逢いに行くとも!)と心の中で応答する。記念撮影を終え、七郎平への道を40メートルほど下ると、左に水無平への捲道が続く。トラバース気味の悪場を過ぎて沢を3つほど渡ると再び尾根に乗り、しばらく歩くと一気に水無平へ下る。昼過ぎに水無平のカヤ場で昼食とする。ビールがまたうまい。

をかいて酒毒? をきれいに流し、9時に「グシの峰」着。東に赤花沢の岩壁を見下し、西には遠く新潟県庁と日本海、佐渡島を眺望する。まだ紅葉には早い。

グシの峰と木六山の鞍部を一担下り、木六山の尾根を一步一步と登る。11時によやく山頂(825・1m)に着く。事務局の杉本さんから、三等三角点の説明を拝聴して大休止。七郎平山、銀次、銀太郎山、五剣谷岳と続き、求められるままに説明をしてい

菅名岳登山について(お礼)

菅名山岳会

「第8回秋の菅名岳登山」実施にあたり、格別のご理解を賜り感謝しております。

お陰様を持ちまして天候に恵まれ、秋の日差しを身体一杯に受けた老若男女、家族連れの参加者200名が菅名岳の自然に触れ、紅葉の始まった「ブナ林」眼下の「阿賀の川ライン」の眺望を楽しみつつ一人の落伍者、事故、怪我もなく下山できました。

「自然を大切に」「心身を大切に」「仲間を大切に」をモットーに事故のない登山ができましたことは当会として非常に喜びとするところであります。

この度の実施にあたり、貴殿(店)から御協力を頂き感謝しております。

今後ともなにかとお世話になります。ご指導、御協力ください。よろしくお願いいたします。

記

実施日 平成元年10月1日

参加者 200名 五泉90

新潟40 新潟25 新発田5

亀田3 村松7 長岡・三

条・加茂・巻・吉田・水原・津川、安田 計200名
日程 午前9時、登山入り口で、五泉ライオンズクラブから安全登山と自然保護啓

冬山の遭難事故防止について(依頼)

長野県山岳遭難防止対策協会

1. 適切な計画と無謀登山の自粛について
2. 危険地区の指定について

(1) 登山計画はしっかりし、タリゲーターを決めて参加者全員により検討を行い、計画内容を全員が知っているほか、予備日、停滞日、を考慮した余裕のある日程を組むこと。

(2) 冬山における装備品の欠陥は直ちに遭難に結びつくため、アイゼン・ピッケル・石油コンロ等は事前に点検を行い確認すること。

(3) 単独登山はやめること。

(4) 万一遭難が発生した場合は、所属パーティー等で処理できるような、し

山系別	危険地
槍・穂高連峰	前穂高岳東壁及び吊屋根、西穂高尾根
後立山連峰	不帰嶮～五竜岳～鹿島槍ヶ岳
八ヶ岳連峰	横岳(大同心・小同心) 一帯
中央アルプス	宝剣岳及び中岳西側一帯
南アルプス	鋸岳、赤石岳、塩見岳一帯
戸隠連峰	西岳一帯

蒙「菅名岳案内看板」寄贈に伴う五泉市への贈呈式及び除幕式を行ったのち開会式を挙行

9時30分登山開始、10時丸山尾根、11時30分頂上、12時50分下山開始、15時30分咲花温泉16時

3. 山岳情報について

(1) 登山シーズン中は登山口に登山指導所を開設します。入山時は必ず立ち寄り登山道や積雪などの山岳情報を確認してから入山すること。

また、気象の急変等が予想される場合は登山計画の変更、登山の中止等を求める場合があります。

(2) 下山した場合は、入山の警察、補導所へ登山コースの積雪状況等を連絡し、より正確な相談、補導活動ができるよう協力すること。

4. 山岳保険の加入について

遭難事故の捜索・救助活動には、大変な人員と費用を要するものが通例です。この費用は身内の方などが負担することに なりますので、必ず山岳保険に加入して から登山するよう。

5. 登山計画書及び登山届(スキーツアーカード)の提出の徹底について

登山計画書は入山

の10日前までに長野県警察本部外勤課(〒380 長野市県庁内)と入山地警察署へ提出するほか、各自の所属する山岳会や学校、会社等にも提出して入山するよう。

6. 通信連絡の確保について

冬山はほとんどの山小屋が閉鎖されていますので、通信確保の手段としてトランシーバーやトランジスタラジオを携行して万一の場合に備える。

加盟団体各位

新潟県スポーツ振興基金の寄附について

寄附について

県体育協会では、昭和60年から県民のスポーツ振興を図るため、5年間で5億5千万円の犬目標を掲げ募金活動を展開しております。

つきましては、本県の競技力向上の大事業の趣旨を御理解いただき、1口(5000円)以上の募金を山岳協会加盟会員よりお願いします。

協会事務局で取りまとめをしまして、体育協会宛振込みいたします。